



## できごと

6月23日(火)に、平成21年度公立図書館等職員研修「児童・青少年サービス研修」が行われました。今年度は浦安市立中央図書館副主査の森田志織氏を講師にお迎えして、「乳幼児サービスと絵本」というタイトルで講義をしていただきました。まず、わらべうたの大切さや赤ちゃん絵本の選び方について解説していただきました。具体的な書名を挙げながら、どのような点に注目して本を選んだらよいか詳しく説明していただき、参加した方は大変熱心に聴講していました。また、浦安市立図書館で実際にどのような乳幼児サービスを行っているかという事例もご紹介いただきました。(裏面にて、概要を紹介します。)

## 子ども図書研究室のテーマ展示

耐震補強工事のためお休みしています。

### イベント情報

平成21年度 静岡県読書推進フォーラム

日時：平成21年12月6日(日)午後1時～

会場：森町文化会館ミキホール 周智郡森町森1485

参加無料・定員800人(先着順)

内容：渡辺淳一氏の講演会

群読「雨二モマケズ」(小学生と保護者)など

展示：もりまち発信「親子読書エピソード」

静岡県読書ガイドブック

『本とともにだち』掲載図書の展示など

申込み：氏名、住所(市町名)、電話番号を記入の上、はがき、FAX、Eメールのいずれかで申し込む。

10月13日(火)から受付開始

申込先：県教委社会教育課「読書推進フォーラム」係

住所：〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6

電話：054-221-3115 FAX：054-221-3362

Eメール：kyoui\_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp

## 新着資料から

### 物語

『しりとりのに』



深見 春夫 / 作・絵

PHP研究所

2009年4月

しりとりで自信のあるカナちゃんが「しりとりのに」と書いてある門をくぐると、そこにはしりとり大王がいて、しりとりを完成させないとこの国から出られない、というからさあ大変！でも、カナちゃんは得意のしりとりで次々とピンチを切り抜ける。

子どもの大好きなしりとりをテーマに、短いお話の中に、次の言葉が出そうで出ない、そんなしりとりの切羽詰った感じを効果的に取り入れて、ハラハラドキドキする楽しい冒険物語になっている。【小学校低学年から】 (牧田)

### 絵本

『びょういんにおとまり』



バラージュ・アンナ / 文

ダーノシュ・ユディット / 絵

うちだ ひろこ / 訳

風涛社

2009年4月

「びょういんにひとりでおとまりすることになりました。」扁桃腺の手術のため入院することになった幼稚園児の「ぼく」の口から、退院までの日々を丁寧に語る絵本。

様々な検査や、ほかの子どもたちと過ごす病室の様子などを、抑制された色調と口調で描いている。また、「あなたはびょういんになにをもっていましたか？」など、読み手の子どもたちへの直接の語りかけは、検査や入院などを控えた子どもたちの不安な気持ちにも寄り添うものだろう。【4、5歳から】 (鈴木由)

## 児童・青少年サービス研修 「乳幼児サービスと絵本」報告

**乳** 幼児サービスは、本格的に絵本に接する前の子どもとその親の両方を対象としたサービスです。乳幼児サービスについての森田氏のお話の一部を、以下にご紹介します。

**わ** らべうたについて  
わらべうたは絵本と同じくらいに大切なものだと考えています。わらべうたは大切な言葉の体験のひとつで、親子のスキンシップを自然に取ることができない親も、わらべ歌を通じれば自然にできるようになります。わらべ歌の節やリズムは日本語のフラットな話し方やリズムに近いので、言葉の鍛錬にもなります。子どもと目を合わせて歌いかけ、身体を触れ合っ遊ぶことで子どもの心が安定し、また、大人の気持ちも落ち着きます。



**赤** ちゃん絵本について  
最初に出会う絵本は本の世界への招待状です。生後4～5か月はじっとものを見る時期で、色の見分けや輪郭の認識ができるようになってきます。この時期の認識絵本（ネーミングブック）は、『くだもの』（平山和子/さく 福音館書店）や『どうぶつのおかあさん』（小森厚/文 藪内正幸/絵 福音館書店）のような、絵が美しい本がよいでしょう。例えば、くだものみずみずしさが伝わって、手を伸ばして食べたいような本がよいです。また、余分な文章や視点のぶれがなく、語り口が統一されたものが望ましいと思います。それから、6か月～1歳前後は、視力が不十分で、あまり大きな範囲は捉えにくい時期なので、



「いないいないばあ（松谷みよ子/文 童心社）」のように同じ構図で物が出てきたり、言葉が繰り返されていたりする本がよいです。また、美しい日本語で書かれている本がよいでしょう。

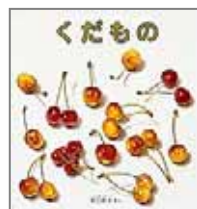
2歳くらいからは、おはなし会を楽しめるようになってきます。ストーリー絵本では、せりふが分かりやすく、ストーリーが明確ですっきり構成されていて、読み終えたときに達成感と開放感のあるものがよいでしょう。よい日本語かどうかは繰り返し口に出して読んでみると分かります。2歳前後の時期には、たくさんの本を読むよりも、よい本を繰り返し読むのがよいと思います。

赤ちゃん絵本を評価する場合、刊行されているシリーズのまとまりで考えるよりも、一冊ずつ単品で評価するのがよいと思います。頼れるツールがまだ少ないので、まずは古くから評価されている本を買い揃えるのがよいでしょう。

**浦** 安市立図書館の乳幼児サービスについて  
わらべうたの会は、親子15組くらいまでが適切な人数です。対象年齢・月齢は細かく設定した方がよいです。また、親子で楽しむ絵本講座は、お母さんを幸せにすることでお子さんも幸せになるという講座として行なっています。リピーターになってもらうには、司書の日々の研修や情報交換が大切です。

### 所蔵資料から

#### 絵本



『くだもの』  
平山 和子/さく  
福音館書店  
1981年10月

スイカやリンゴなどのくだものについて、外見と食べる直前の状態とを交互に紹介していく。写実的な絵からおいしそうな感じが伝わってくる。「さあ どうぞ。」という言葉の繰り返しがリズムカルで心地よい。【0歳から】

（剣持）

\*表紙画像はすべて出版社の許可を得て掲載しています。